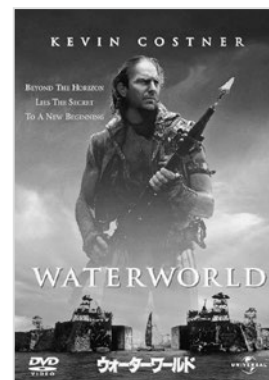


『ウォーターワールド』

1995 年／アメリカ／ケビン・レイノルズ監督作品

節目節目にケビン・コスナー

会員 片岡 詳子 (50 期)



『ウォーターワールド』
DVD：1,429 円＋税
発売元：NBC ユニバーサル・
エンターテインメント
※2019 年 10 月の情報です。

見た回数が最も多い映画は「ボディーガード」である。執筆のご依頼をいただいて、これかそれかで迷った。どんだけケビン・コスナー好きやねんって話だが、特に好きではない。ていうかむしろ嫌いである。無口で不器用なタフガイの一本調子で、何を見てもボディーガードにしか見えないし。

ところで、私はドの付くインドア派で、休みの日はお昼近く起きてから暗くなるまで Netflix, hulu, アマゾンプライムをはしごしている（暗くなったら五反田界隈の飲み屋をはしごしている）。最近彼は、Netflix オリジナル映画の「ザ・テキサス・レンジャーズ」に、伝説の強盗犯カップル「ボニーとクライド」を追う老警官役で主役をはっていた。ケビン・コスナーは、老いてもなおボディーガードであった。少し前に見た「ドラフト・デイ」や「ドリーム」（原題：Hidden Figures）にも登場していた。普通のビジネスマンの役だが、やはりまあまあボディーガードであった。ということで、嫌いなのだがときどき名作とともに現れる。「節目節目にケビン・コスナー」である。

そして、「ウォーターワールド」。舞台は温暖化により南極・北極の氷が溶け海面に覆われた地球。「土」が貴重品として高値で取引されている。地球のどこかに「ドライランド」が存在するという伝説が信じられていて、みんな探している。時代について言及はないが、そういう環境に適合してエラや水かきを備えたミュータントが現れているくらいだから 100 年、200 年先の設定ではないだろう。ケビン・コスナー扮する

マリナーはそのミュータントで、耳の裏にこっそりとエラがあるが、ここでも例によって無口で不器用なタフガイだ。人類はグループを作って海上要塞的な建造物や大小の船の上で生活し、覇権争いを繰り広げている。ざっくりいうと北斗の拳の海上版である。悪役チーム「スモーカーズ」は、飛行機や水上バイクに乗ってマシンガンで攻撃してくる。土さえないのになぜか工業製品が豊富だ。マリナーはスモーカーズを倒して、気球に乗ってあっさりドライランドにたどり着く。でも地上生活になじめないマリナーは、ヒロインを残しドライランドからそっと海に旅立つ。ここで「オールウェイズ・ラブ・ユー」が劇的に流れる。私の頭の中で。

ウィキペディアによると、第 16 回ゴールデンラズベリー賞で、最低助演男優賞をスモーカーズのリーダー役のデニス・ホッパーが受賞し、最低作品賞、最低男優賞、最低監督賞はノミネートにとどまったそうである。突っ込みどころ満載の駄作であるが、心に残る映画が名画とは限らないのだ。私は一昨年まで大弁所属でユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）のインハウスだったのだが、ウォーターワールドのショーが超おすすりである。上記のとてもない世界観がリアルに再現される大迫力のショーをぜひ東弁の皆さんにもご覧いただきたいと思い、この作品を選んだ。USJ といえばハリー・ポッターと思っているそのあなた、大阪行きが決まったらすぐ、ウォーターワールドのショースケジュールをチェック！